



立 志 栗 中 だ よ り

学 校 だ よ り
足立区立栗島中学校
校長 豊崎 努
令和7年2月13日
<http://www.adachi.ed.jp/adkuri>

「プロ」「本物」

校長 豊崎 努

最近テレビで「昭和歌謡」や「80年代・90年代ポップス」や「昭和・平成の歌」など（以下「昭和歌謡など」とします）が取り上げられることが多いような気がします。昭和の時代から「なつメロ（懐かしのメロディ）」というものはあり、私も子どもの頃（昭和40～50年代）にも、大正から昭和初期の歌が流れる番組を見た記憶があります。とはいえ、子どもの私にはただの古くさい歌にしか聞こえなかったような覚えがあります。

ところが、今昭和歌謡などが取り上げられるのは、決して懐古主義の「なつメロ」としてだけではなく、今も生きている歌、（某番組の「博士ちゃん」のような）若者に受け入れられる歌として存在しているようです。なぜ若者たちを含めて今の人たちに受け入れられるのだろうか？という思いもありますが、なるほどね、と思える部分も音楽科（音楽家）としての思いとしてあるのは事実です。

昭和歌謡などの時代、つまり昭和から平成の頃の音楽界（歌謡曲界）には、ヒットメーカーと呼ばれるプロの作曲家・作詞家がありました。その頂点にいるような作曲家と作詞家が組んで作った歌は、間違いなく、と言っても過言ではないようにヒット（大売れ）していました。

ヒットメーカーたちは、「ヒットの法則」ともいえる作曲・作詞技法をもっています。また伴奏のオーケストラやバンドの楽譜を作る編曲家も、当時発達してきた電子楽器を含めた楽器の使い方や、和音（ハーモニー）の使い方を極めていました。才能に恵まれていたのは確かでしょうが、それだけでなく、相当な理論の研究や、実験的な作品作りもしていたのだと思います。つまり、才能と努力の結晶ということです。プロたちが自分の技量を使って、全力で作った歌が今も残る「昭和歌謡など」に多いような気がします。

昭和や平成の時代にリアルタイムで聴き、また、大学で音楽を学んできた私にとって、当時の熱狂は当たり前でありつつ、良いもの（言い換えると“本物”）は時代を超えて価値があり、時代を超えて人の心をつかむものなのだと思います。そして、良いものを“良い”と思える自分に幸せを感じます。

音楽、文学や美術などの芸術、さらに様々な「もの」や「こと」、「自然」においても、本物の良さを感じられる感性や価値観を磨くことは、人生を豊かにするものだと思います。

そのために必要なこと。それは音楽・美術・文学 etc.の本物に自分から接していくこと。そして、接したもので心を動かすこと。それが何よりの早道だと思います。

誰もが世の中に向けて発信することが容易になった今、この世の中には「おかしなこと」や「変なこと」、「一見本物っぽく見えるもの」もたくさんあります。こうした「もの」や「こと」に違和感をもつことは、人として大切な力だと考えます。（気づかなければ気楽なのかもしれませんが・・・）

今をがんばり、未来を生きる栗中生には、栗島中で学び、経験したことを土台に、自分の求める本物を見つけ、自分の進む道のプロになり、豊かな人生を送って欲しい。そんなことを思う2月です。

1月9日(木)1・2・3組席書会 1月28日(火)5組席書会

12月から国語の授業で始まった書き初め、その練習の成果を発揮する席書会を全校で行いました。各学年グループに分かれて、3時間集中して書に向き合いました。1年生は黙々と、2年生は和気あいあいと、3年生は全集中で、各学年雰囲気は違えども、最後まで一生懸命取り組む態度は全学年同じでした。休み時間を惜しんで、書き続ける姿勢は素晴らしかったです。



文字を書くことが得意な人もいれば、そうでない人もいます。それでもみんなが一生懸命取り組むことで、良い雰囲気が生まれます。すると、苦手な人も頑張れることがあります。それが集団の力です。これは席書会に限ったことではありません。何事にも全員で、全力で取り組める栗中生であり続けてください。

1月9日(木)1学年「いのちの安全教育」

足立区では、全ての子ども達が安全・安心な環境で成長していけるように、「自分が大切にされていること」「友達が大切であること」「嫌なことは嫌と言っていること」を幼児教育の段階から伝えていきます。本校でもその一環として、「生命(いのち)の安全教育」を1学年で行いました。今年度はNPO法人 湘南 DVサポートセンター代表の瀧田信之さんをお招きして、ワークショップ形式で講演を行っていただきました。



私達は一人一人違う価値観を持っています。自分の価値観の押しつけは人間関係を壊してしまいます。自分の言葉で「ストップ」と言えることが大事だと学びました。

一人一人、人間は意味があって生まれてきました。そして愛情に包まれて育てられました。大人になったら、その愛情を誰かに伝えることができるようになってほしいというメッセージも込められていました。

1月17日(金)道徳授業地区公開講座

5時間目は5組、6時間目は1・2・3組で、各学年・各学級の実態に合わせて主題を設定し、道徳授業地区公開講座を行いました。特別支援学級は「本当の友達とは何か?」、1年生は「自分の意見も他人の意見も大切に」、2年生は「集団生活の充実・本物に触れる」、3年生は「思いやりの心・人間愛」を主題に選びました。個で考える時間、友達と考えを共有する時間を経て、さらに自分の考えを深めることができました。



その後の協議会では、教員と地域の方々や保護者の方々などが活発に意見を交わし、道徳教育の大切さを再確認することができました。道徳は、生徒にとって自分と向き合う時間、教員にとって生徒の考えを知る時間です。今後も道徳の時間が充実するように、全校体制で道徳授業を推進して参ります。

1月24日(金)2学年校外学習

「楽学両道 in鎌倉～ルールを守って最高な1ページを刻もう!!～」をスローガンに、2年生の鎌倉校外学習が行われました。校外学習は班別行動が基本です。来年度の修学旅行を見据えて、班長を中心に、班員とコミュニケーションを図りながらコース決めを行い、自分達だけでコースを回りました。時間通りに回れずに苦勞した班、迷子になって目的地にたどり着かず疲弊した班、それぞれの班に困難があったようですが、班員と協力して知恵を出し合い乗り越えました。計画したのから変更が生じた際には、先生方への相談・報告もしっかりでき、臨機応変に行動ができました。



仲間と過ごす時間から、学ぶものがあつたはず。そして、一人一人の心のアルバムに素敵な1ページが刻まれたことでしょう。自分達で成し遂げたことを自信にして、最上級生となる準備を加速させてください。

●○3月の主な行事予定●○ (詳しくは3月行事予定をご覧ください。)	
3日 (月) 全校朝礼、都立高校一般発表	4日 (火) 3年球技大会、5組お別れ会
5日 (水) 職員会議	6日 (木) 3年校外学習、都立高校後期出願
7日 (金) 専門委員会	10日 (月) 生徒会朝礼
11日 (火) 避難訓練、都立高校後期入試	12日 (水) あだちからの日、3年保護者会
13日 (木) 立志式、合唱発表会	14日 (金) 都立高校後期発表
17日 (月) 卒業式予行	18日 (火) ⑤⑥卒業式準備
19日 (水) 卒業式	20日 (木) 春分の日
21日 (金) 2年球技大会、1・2年保護者会	24日 (月) 生徒会朝礼、1年球技大会
25日 (火) 修了式、離任式、職員会議	26日 (水) 春季休業始